

（端裏書）

「新九郎様

宗十郎」

追_而得御意候、然_者

御前御内用銀段々御出情

御働キ以出来致シ罷帰り、早々

指上候処、御機嫌ニ思召候、乍

極内與惣兵衛より書附取帰

入

御覽候処、後年迄御働キ之

御心底格別御満足ニ思召

尚又宜申入置候様ニ被

仰付候、追_而

御前御筆等中井与惣兵衛迄

御下被成候旨被成

御意候間左様ニ御承知可

被下候

一 御前_江御指上之御肴

早速致披露候処

御機嫌思召候、私より宜

可申入置旨被仰付候

右為可得御意如此御座候、以上

二月十五日